

平成30年度

少年の主張 島根県大会 報告書

第47回 島根県少年弁論大会



日時

平成30年

9月27日(木)

10:30~15:30

会場

安来市総合文化ホール

アルテピア

大ホール

主催／青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会（主管：安来市中学校長会）

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

共催／安来市教育委員会

後援／島根県、島根県教育委員会、島根県警察本部、安来市、

安来市青少年育成連絡会議、島根県PTA連合会、安来市PTA連合会

はじめに

「少年の主張鳥根県大会」は、鳥根の明日を担う中学生が、日ごろの学校生活や家庭生活を通じ、考えたり感じた事柄を、同級生のみならず一般市民など多くの人々の前で発表する場です。発表者にとっては自らの自立心を育てる機会となります。主張を聞いた中学生は共感することによって自分の考えを広め、自覚する機会となります。そして発表を聞いた大人は中学生に対する意識や行動に理解や関心を深める機会となります。

本年度は47回目を迎え、平成30年9月27日安来市総合文化ホールアルテピアで開催しました。当日は、鳥根県内各地区から選出された17名が、自分自身に関わること、家族、友人、学校や地域のできごと、故郷への思いなどからテーマを見つけ、豊かな感性でとらえた意見を力強く堂々と発表しました。この記録集は、当日の主張を収録したものです。

ところで、人は何時ごろから友情をはぐくむことができるのでしょうか。

フランスの作家、サン＝テグジュペリの作品、「星の王子さま」の中で、王子さまがキツネと出会い、「おいで、ほくと遊ぼう」と声をかけますが、キツネは「なついていないから遊べない」と言います。

王子さまが「『なつく』って、どういうこと？」と尋ねると、「それはね、『絆を結ぶ』ということだよ」と答えます。キツネは「きみはまだ、ほくにとっては、ほかの十万の男の子となにも変わらない男の子だ。だからほくは、べつにきみがいなくてもいい。……きみにとってもほくは、ほかの十万のキツネとなんの変りもない。でも、もしきみがほくをなつかせたら、ほくらは互いに、なくてはならない存在になる。きみはほくにとって、世界でひとりだけの人になる。ほくも君にとって、世界で一匹だけのキツネになる」と答えます。

ここでの「なつく」は友情をはぐくむと言い換えることもできましょう。

友情をはぐくむということは、王子さまとキツネが互いに心の中でそう認識して、はじめて成立します。キツネが王子さまに「いちばんたいせつなことは、目に見えない」とも言いますが、友情は、その目に見えない「いちばんたいせつなこと」つまり「信頼」とか「絆」によって初めて成り立つものといえましょう。

中学生時代は、自分自身に心があることと同じように、他人にも心があること、人には誰にでも心があり、姿として見えないが、そうしようとすれば、その認識ができる時代です。友情が芽生え、その関係に気づき、一生涯それが続くことを願う時代と言えるでしょう。わたくしたち青少年育成鳥根県民会議は、平成30年度の活動の一つに「大人が変われば子どもも変わる」運動を挙げています。ぜひ多くの方々にこの文集をお読みいただき、私たち大人が「少年の主張」から学ぶ姿勢を培っていただければ幸いです。

終わりに、本大会に駆けつけていただいた安来市長様をはじめ、多数の来賓の皆様、審査員の皆様方、また、安来市中学校長会をはじめ安来市青少年育成連絡会議など安来市の方々のご尽力を賜りました。アトラクションには、安来市立第二中学校の生徒さんにご協力をいただきました。厚く感謝申し上げます。

平成30年12月

青少年育成鳥根県民会議
会長 高橋 憲二

目次

はじめに

大会風景..... 2

審査結果表..... 4

発表作品..... 5

開催要項.....22

審査員・来賓一覧.....23

市郡大会概要一覧.....24

アトラクション紹介／平成29年度（昨年度）の受賞者.....25

全国大会出場者・審査結果.....26

全国大会「内閣総理大臣賞」受賞作品.....27

あとがき

大会風景



開会式（会場：安来市総合文化ホールアルテピア大ホール）



聴衆席風景



島根県知事あいさつ（代読 中央児童相談所長）



青少年育成島根県民会議会長あいさつ



安来市長あいさつ



アトラクション（安来二中・安来節保存会）



集合写真



審査結果発表及び講評



島根県中学校長会長挨拶



審査員特別賞授与



審査員特別賞授与



島根県知事賞授与



島根県教育委員会教育長賞授与



島根県警察本部長賞授与



青少年育成島根県民会議会長賞授与

平成30年度「少年の主張島根県大会」審査結果表

賞名	演題	地区	学校名	学年	氏名
島根県知事賞	「ダブル」	隠岐	隠岐の島町立西郷中学校	1	たかなし 高梨 はな
島根県教育委員会教育長賞	私の生命線	飯石	飯南町立頓原中学校	3	なか 中 ゆづき 柚月
島根県警察本部長賞	家族で闘う	鹿足	津和野町立日原中学校	3	さいとう 斎藤 あかり 明里
青少年育成島根県民会議会長賞	今、私たちにできること	安来	安来市立第一中学校	3	だて 伊達このか
審査員特別賞	守るべきもの	雲南	雲南市立大東中学校	3	ながい 永井 ひろき 宏樹
〃	自分を変える	出雲	出雲市立平田中学校	3	のつ 野津 かずみ 歌純
優秀賞	プレッシャーの先へ	仁多	奥出雲町立仁多中学校	3	ふじい 藤井 あつし 淳史
〃	今を「生きる」	松江	松江市立第二中学校	3	なだ 灘 わかな 和夏奈
〃	集団の中で「自分」をもつこと	出雲	出雲市立湖陵中学校	3	なかおな 中尾 ななこ 七奈子
〃	弟の存在	安来	安来市立伯太中学校	1	みやもと 宮本 のりか 典佳
〃	向日葵とオオチドメ	浜田	浜田市立三隅中学校	3	こうの 河野 ひろき 寛生
〃	「普通」って何だろう	益田	益田市立横田中学校	1	さだ 佐田 はるこ 治子
〃	繋がる喜び	邑智	川本町立川本中学校	1	えんどう 遠藤 ルツ
〃	私を成長させてくれた 出会い	松江	松江市立玉湯中学校	2	はせがわ はせがわ ゆい な 長谷川結菜
〃	人とつながる	益田	益田市立真砂中学校	3	おかざき 岡崎 えいた 永太
〃	今の私たちにできること	江津	江津市立江東中学校	3	あべ 安部 あいり 愛理
〃	相手を思う言葉	大田	大田市立北三瓶中学校	3	おおくに 大國 りょうが 凌雅



全国大会 文部科学大臣賞 島根県知事賞

「ダブル」

隠岐の島町立西郷中学校
1年 高梨 はな

夏休みを数日後に控えた7月16日、全校一斉での竹島学習がありました。先生の話の聞いたり、動画を見ていたりしたとき、こんな声が聞こえてきました。

「ねえ、これって韓国が間違ってるよね。」

日本の伝えている竹島の歴史が正しいと思う気持ちと、それでも韓国のことを悪く思われない気持ち。私の心の中には、日本と韓国どちらとも信じたいという気持ちがあって複雑です。なぜなら、私の父は韓国人。私は日韓のハーフだからです。

日本と韓国は歴史上微妙な問題を抱えていて、常に好感と嫌悪とを繰り返しています。今は「TWICE」や「BTS」などのKポップ人気で韓国に興味をもってくれる人がたくさんいます。「韓国語が話せてうらやましい。」と友達にもよく言われます。でも、このブームはいつまで続くのでしょうか。

私は小学生の頃クラスメートに「お前韓国人だろ。竹島返せよ。」と言われたことがあります。そのときは、やっぱり悲しくて悔しかった。でも友達とは家族の国籍が違うだけで、同じことで泣いたり笑ったりする毎日は変わらない。そう信じられたから、勇気を出して言いました。「私が韓国人なのが悪いんじゃない。悪いのは認め合えない世の中だと思う。」と。

私が韓国人でもあり日本人でもあることは、生まれたときから決まっていたことです。そして、父の国韓国を大切に思うことは、母の国日本を大切に思うことと同じです。どうしてくらべることが出来るのでしょうか。この気持ちをもみんなにもわかってほしかった。あのとき自分の言葉できちんと伝えることができ、本当に良かったと思っています。

私は私の経験から、国と国との関係や人の心のつながりをブームにはいけないと強く感

じています。どんな人とでも、どんなことがあっても、わかり合う努力をしたい。それは決して難しいことではないと思います。

例えば、私の家では、家族で話をするとき韓国語と日本語が自然に混じります。

(はな)「今日部活でたたくところ間違えちゃった。」

(母)「えー、そこちゃんと 연습(練習)しないと。」

(父)「대회까지 조금 밖에 안 남았으니깐 열심히 해야지. (コンクールまであと少しだから、よく練習して頑張らないとな。)」

(はな)「알았어. (はい。)」

といった具合です。また、食卓には韓国のりと日本のりが一緒に並んでいます。

こんなふうにならざるにそれぞれの違いをそのまま受け止めて、それでも「すべての人が同じ人間である」と理解することから、わかり合う努力は始まるのではないのでしょうか。外国人だからという理由でしたいことが出来ない。また日本人と同じように見てもらえないと悩む人がいなくなり、誰もが安心してこの国の中で暮らしていける。大好きな日本は、そんな国であってほしいです。

私の心の中には、日本が半分、韓国が半分なのではありません。日本も、韓国もなのです。それぞれの国の良さを、胸を張って伝えたい。私は、「ハーフ」ではなく「ダブル」の生き方を目指したいです。



島根県教育委員会教育長賞

私の生命線

飯南町立頓原中学校
3年 中 柚月

「うわあ～。きれいな海～。」

飛行機から見下ろした沖縄の第一印象はなんといっても海の美しさ。これからの4日間を思うとわくわくして、空港に着いたと同時に、「沖縄に来たぞー！」と叫びたい気分でした。

去年の12月、私は修学旅行で沖縄に行きました。海は青く、街も人々もととても明るい。沖縄は平和を象徴するような街だと感じました。事前学習で沖縄戦のことを少しは知っていましたが、沖縄の街にはそんな様子はどこにもなく、ただ楽しい気分であっただけでした。

バスの中で、バスガイドのまゆみねえねえから沖縄戦を体験した方のお話を聞きました。73年前の1945年4月にアメリカ軍が沖縄本島に上陸し、激しい地上戦があった時のことです。住民は皆、ガマという洞窟に隠れました。ガマで赤ちゃんが泣くと、「アメリカ軍に居場所を教える気か。黙らせろ！」と責められます。お母さんは赤ちゃんを殺されかねないとおびえ、声を出さないよう口をきつく押さえるしかありません。気がつく、赤ちゃんは亡くなっていました。そのお母さんは「ごめんね、ごめんね。」と、わが子の命を奪ってしまったことをずっと悔やんでこられたそうです。

私もガマに入りました。中は真っ暗で何も見えません。懐中電灯がなければ何も見えないし、足場も悪いので、とても怖いです。ガマのガイドの方が、

「少しだけ、懐中電灯を消しましょう。」

と言われました。不安だった私はとっさに友達の手を握りました。そして電気を消したとたんに前や隣にいた友達が全く見えなくなり、気配さえ感じられません。世界に一人取り残された気分でした。私は、大丈夫、大丈夫、と自分に言い聞かせていました。でも、ふいに、「助けて。」という子供の声聞こえるような気がしたし、隅にうずくまっている人の姿が見えたようにも思いました。

「命どう宝」一命は宝、命さえあれば、生き

ていさえすれば幸せという意味の沖縄の言葉です。これまでも私自身、命が宝だと思って生きてきました。

私は1歳の時に小児がんになり、医師から「あと1年ももたない」と余命宣告を受けました。母はその余命宣告を受け入れることができず、私が少しでも長く生きられるように、毎日マジックで私の手に生命線を書き続けたそうです。命さえ助かるなら、とあちこちの病院を訪ね、手術を何度も行い、父や姉と離れて暮らす生活が長く続きました。がんが大きくて手術で取ることができなくなるといわれ、ついには臓器移植をする話にもなりました。もし母の肝臓が私に合わなければ、叔母が自分の肝臓をあげると言ってくれていたそうです。しかし、ある医師の方ががんを摘出することに成功し、私は奇跡的に、臓器移植もせずに回復しました。もし私のがんが治らなければ、私は学校にも通えず、勉強もできていなかったでしょう。たくさんの医師の方々、家族、周りの人たちの支えがあり、私は今、生きています。

私の命をなんとしてでも救いたいと懸命に闘ってくれた母や家族。その一方で、沖縄のガマでわが子の命を奪ってしまったお母さんの苦しみと後悔を思うと、命どう宝、命は宝物だと心の底から言うことができます。

また沖縄戦では、私と同じくらいの年齢の女学生が「ひめゆり学徒隊」として戦争に参加させられ、多くが亡くなりました。夢を叶えることもできずに散っていった命。彼女たちの死に強い憤りと無念を覚えます。今生かされている私は、だからこそそんな彼女達の方まで、自分の夢を一生懸命追いかけて生きたいです。

赤ちゃんだった私の手に、母がマジックで必死で書いてくれたという生命線。これからは、私自身が自分の生き方で、生命線を確かなものにしていきます。

「お母さん、もうマジックはいらないよ。」



島根県警察本部長賞

家族で闘う

津和野町立日原中学校
3年 齋藤 明里

今、日本人の二人に一人が癌になると言われています。でも、まさか私の大事な家族が癌になるとは、思ってもいませんでした。

私の母が癌だと知らされたのは、去年のことです。

両親は、家族全員が集まった部屋で話し始めました。どこの癌でどんな治療をするのか、どのくらい時間がかかるのか。そして、家族みんなの協力が必要だということ。

ついさっきまで明るく話をしていた母が、癌だなんて、とても実感の湧くものではなく、正直すぐには何の感情も持てませんでした。

ましてや、これまでの生活が変わるとは、微塵も思っていませんでした。

しかし、手術・治療と進んでいくうちに、私たちの毎日は変わっていきました。

母が入院して、抗癌剤の治療が始まったのは、私がちょうど夏休みに入る頃でした。

久しぶりに見た母は、痩せていて、起き上がることもできない状態でした。あんなにおしゃべりだった母がほとんど口もきかず、たまに発する言葉は、「さすってほしい」と訴えるだけ。だから、私は、ひたすら母の体をさすりました。他には何もしてあげられません。かける言葉も見つかりません。静まり返った病室で、こんなにつらい気持ちで母と過ごしたのは初めてでした。

さらに、その後、母の髪の毛が抜け始めました。母は、私に気を使ってか、私の前では「髪の毛なんか無くてもへっちゃら。」と言っていました。ひそかにお風呂場で泣いていたことを後から知りました。

ある日、父が仕事から帰ってくると、驚くことに頭を丸坊主にしていたのです。みんなで大笑いしていると、父は母に「一人じゃないよ。二人でお揃いだよ。」と言ったのです。母は、うれしそうに笑い、そのあと、ぼろぼろと涙を

流していました。

父は毎日、いつもより1時間以上も早く家を出て、仕事の前に病室に行き、仕事が終わると面会時間終了まで母のそばに付き添いました。

祖母は、母がいない間、膝が痛むのを我慢しながら、家事と私たちの世話をしてくれました。そんな祖母の手助けになればと、私は毎朝5時に起き、洗濯機を回し、学校に行く前に干していくことをしました。

母だけでなく、家族全員で闘う闘病生活だと感じました。

母と同じ病室に入院していた人たちは、それぞれ病気でつらい思いをしておられました。しかし、決して諦めることなく、また元気になるんだとその一心でがんばっておられました。

頑張る患者さんたちに寄り添う医師や看護師さんの姿も、今回初めて目の当たりにしました。ただ、病気を取り除くだけではなく、気持ちが負けそうになる患者さんや家族を励ましてくれるすごい仕事なんだと知りました。

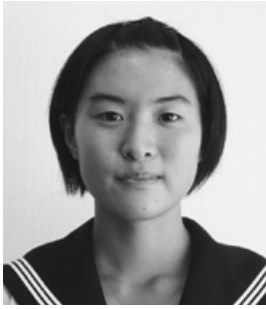
母の病気をきっかけに、これまで私の人生で感じたことのない気持ちになり、今までになかった経験をしました。

私の将来の夢は、獣医になることです。人と動物を一緒にするなと怒られるかもしれませんが、しかし、今回命の尊さを実感して、また、命を救うためにそれぞれの立場で頑張っている人たちを間近に見て、さらに獣医になりたいという気持ちが強くなりました。

一つでも多くの命を救い、一日でも長く、大好きな家族と過ごせるようにお手伝いをする。そういう人間になりたいと思います。

母に、この夢の話をしたら、私がばりばり働く姿を見たいから、長生きすると張り切っていました。

母の活力となるためにも、自分の夢を実現するためにも、私は今まで以上にがんばります。



青少年育成島根県民会議会長賞

今、私たちにできること

安来市立第一中学校
3年 伊達 このか

みなさんは、身近な人の命がもう長くないと分かったらどうしますか。どんな言葉をかけますか。

私のおばあちゃんは、今年の2月に亡くなりました。ガンでした。亡くなる時には、全身に転移していて、おばあちゃんは体を思い通りに動かせなくなっていました。おばあちゃんは何度も手術を繰り返していたので、こんな日がいつか来てしまうことを覚悟していましたが、想像していたよりもずっと辛かったです。亡くなった時も辛かったです。私には病院のベッドで横たわるおばあちゃんの変わり果てていく姿を見ている時の方が衝撃が大きかったです。

おばあちゃんは入院生活を送っていましたが、一度だけ退院できた時がありました。その日は、おばあちゃんとお母さん、私と妹の4人でお出かけをしました。私と妹が交互におばあちゃんの車いすを押し、お店をまわっている間中、おばあちゃんは終始笑顔でとても楽しそうでした。ですが、その笑顔を見ることも、その時交わした「またお出かけしようね。」という約束を果たすことも、もうできません。

おばあちゃんの病気が悪化していると分かった私たち家族は、あるプロジェクトを始めました。それは「ありがとうプロジェクト」です。このプロジェクトを始めたのには理由があります。一つ目は、「ありがとう」という言葉で末期ガンが治ったという本を読んだことです。二つ目は、私の自由研究です。私は、小学六年生の時から「言葉が生命に与える影響」というテーマで自由研究をしてきました。この実験を始めたのは「水は答えを知っている」という本で、水に良い言葉をかけたらきれいな水の結晶ができ、悪い言葉をかけたら結晶が壊れるということを知ったからです。人間の体の約70パーセントは水です。だから、言葉の影響を人体も必ず受けていると思いました。私は、プラスチックカップに水と人参を入れたものを三つ用意して、実験を行いました。一つには「ありがとう」などの言葉を、もう一つには「ばか」などの言葉をかけ、最後の一つは無視をしました。その結果、無視をしたもの、悪い言葉をかけたものの順に水が濁り、腐りはじめました。それに對

して、良い言葉をかけたものは最後まで腐らず、きれいなままでした。この実験から、悪い言葉や無視は体に悪影響を与え、逆に、良い言葉は体に良い影響を与えると考えられます。このことで「ありがとう」という言葉で末期ガンが治ったという話にも納得できるようになりました。

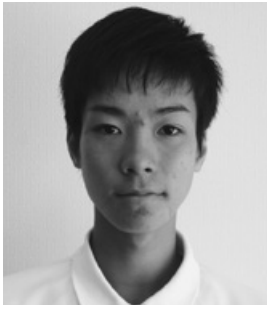
「ありがとうプロジェクト」を始めてから、私はなるべくおばあちゃんのそばに行き、笑顔で話をするようにしていました。すると、おばあちゃんの笑顔が増えていきました。その一方で、テレビを見すぎておばあちゃんに叱られたり、その言葉にイラッとしてきつい態度をとってしまったりすることが何度もありました。その度におばあちゃんは悲しそうな顔をしていました。そのときの顔は、今でも忘れることができません。もしあの時、「ありがとうプロジェクト」を全うできていれば、おばあちゃんはまだ一緒に笑っていてくれたのではないかと、後悔の気持ちでいっぱいです。

私はおばあちゃんのことが大好きでした。もっともっと長生きしてほしいかったです。一緒に暮らしていた心優しい大切なおばあちゃんを亡くし、私の心には、ポッカリと大きな穴が空いてしまったようでした。

人の命はいつ終わるかわかりません。相手との時間の一瞬一瞬を大切にしないと必ず後悔します。おばあちゃんはそのことを私に教えてくれました。

取り返しがつかなくなる前に、あなたも言葉を変えてみませんか。悪口や人をけなす言葉を普段よく耳にします。このような言葉を発することで、相手を傷つけることはもちろんですが、あの実験の水のように自分自身も濁っていきます。だから、気を付けて言葉を使うようにすることは、自分を守ることに、周りの人を守ることに繋がります。このことを学んだ私は、普段の生活の中で相手も自分も笑顔でいられるような言葉を使うようにしました。すると、周りの人の笑顔が増え、私自身も今まで以上に楽しく過ごせるようになりました。

大切なことを教えてくれたおばあちゃん、「ありがとう。」



審査員特別賞

守るべきもの

雲南市立大東中学校
3年 永井 宏樹

国の特別天然記念物が、自分の町で繁殖していることに驚きとうれしさを感じていました。

昨年、私の住む大東町にコウノトリのつがい
が飛来し、4羽のヒナを卵からかえすと、町内
はコウノトリの話題でもちきりになりました。
子育てが安全におこなわれるように手間をかけ
ながら、多くの方がサポートをしています。今
年もまた、4羽のヒナが卵からかえり、6月に
巣立ちました。このニュースは、テレビや新聞
でも大きく取り上げられ、地域の方々に大きな
喜びを与えました。

ヒナが巣立った6月、大東町はホタルのシー
ズンを迎えました。毎年、たくさんのホタルが
町を流れる川を舞い、まるで天の川のような絶
景をつくり、私たちを魅了してきました。今年
も私はホタルを見に、川の土手を散歩しました。
そして見つけた1匹のホタルの美しさに心を打
たれました。「今年もまた会えた…」暗がりの中
に踊る一つの光は、まるで黒いキャンバスに
光で絵を描いているようでした。新鮮で、そし
て懐かしく、いとおいしい光です。

私が通っていた小学校では、ホタルについて調
べたり、町を探訪して故郷の歴史や文化を学んだ
りする授業が設けられていました。ホタルの幼虫
を川へ放流したことは今でもはっきり覚えていま
す。バケツの中にはたくさんの幼虫がいましたが、
そのうち成虫となって輝くのはほんのわずかだそ
うです。「頑張って生きろよ」「輝きながら舞う姿
を見せてくれよ」そう願ってバケツの中の幼虫た
ちを川に流しました。この活動があったことによ
り、私はホタルに関心を持ち、毎年ホタルたちと
の出会いを楽しみにしています。

このように、大東町では、守るべき自然を次の
世代へ伝える教育がおこなわれてきました。コウ
ノトリについても同様に、コウノトリを理解し保
護するための学習が各学校で始まっています。

大東町は、コウノトリという自然環境のシン
ボルを新たに迎え、地域の宝とし、保護のため
の様々な取り組みをおこなっています。また、
それと同時に、大東町のシンボルであるホタル

も守っていかなくてはなりません。

しかし、この二つの象徴を、両方守り続ける
ことは、とても難しいことだと私は考えます。
一方の保護に目を奪われてしまえば、もう一方
は置き去りにされてしまうかもしれません。また、
その地域に住む人達が、一時の興味本位で
過剰に関わることも危険なことだと思います。
両方を守り続けるには、双方に対して十分な保
護を偏りなくすることと、地域住民が正しい知
識を学び理解することが大切です。

コウノトリの飛来から、たくさんの人がコウ
ノトリに注目しています。やってきたばかりの
今だから、コウノトリについてよりよく理解し、
地域をあげてその保護に力を注いでいくことは
素晴らしいことです。しかし、決してホタルを
守ることも忘れてはなりません。

新しいことに目を奪われる。多くの方が注目す
る方へ流れてしまう。これは、人の持つ習性な
のかも知れません。私たちのような若い世代も、
新しいこと、便利なこと、華やかなことに心奪わ
れ、それしか見えなくなってしまうかもしれませ
ん。しかし、私たちが育ってきたこの地域の素
晴らしさや人々との関わり、受け継がれてきた伝
統などを決して忘れてはいけないと思います。

私は、進路選択の時期を迎え、自分のこれか
らをいろいろ思い悩むことが多くなりました。
積極的に新しいものを取り入れ自分の可能性を
広げていくこと、そして、同時に、自分のあり
方を見失わないように信念を持って生きていく
こと。コウノトリとホタルは、そんな生き方を
私に教えてくれたように思います。

私は、コウノトリがやってきたことで、改め
て大東町のホタルについて考えることができました。
川の掃除など、自分に出来る事をみつけ
ながら、大東町のホタルの素晴らしさを多くの
人に伝えていきたいです。

たくさん大切な事を教えてくれるかけがえの
ないこの故郷を、この素晴らしい自然を私はこれ
からも心を込めて守っていこうと思います。



審査員特別賞

自分を変える

出雲市立平田中学校
3年 野津 歌純

私の母は外国人です。母の母国は東南アジアにある、ラオスという国です。

私が、母が外国人であることに不安を持ち始めたのは、中学1年生の時でした。

「野津さんって、ハーフだったの？」と、ある人に突然聞かれたのです。私は、驚きながらもなぞきました。なぜそんなことを聞かれているのか、そのときはよくわかりませんでした。私の母が外国人だと知った人たちは、更に色々なことを聞いてきました。

「どこのハーフ？その国の言葉話せる？日本人とどう違うの？…」

聞かれるたびに私は嫌な気持ちになっていきました。質問してくるみんなの言葉や口調が、まるで珍しい物を見ている、というような気がしたからかもしれません。

それからの私は、母親のことを聞かれると、ごまかしたり、ひどいときには否定したりするようになりました。また、外国人であることを知られないために、授業参観や親子活動だけでなく、部活動の大会にも、来てもらうのを拒むようになりました。

「来てほしくない。」

そう言ったとき、母はとても悲しそうな顔でした。「母を、傷つけてしまった。」自分を責める気持ちでいっぱいになりました。周りを気にして、心も閉ざされていくようでした。

そんな日々の中で、私は小学生の頃の自分を振り返って考えるようになりました。

小学生の頃、私は、母を誇りに思っていました。外国から来て、慣れない土地での生活なのに、母は明るく、日本になじむ努力をしてきました。地域の人たちに、ラオスの料理を教えて喜ばれたこともありました。そんな母が私は自慢でした。

私が中学生になる前、母は私にこんなことを言っていました。

「歌純も、中学生になったら、お母さんのこと嫌いになるかもね。」と。

今思うと母は、私が中学生になり、多くの人とふれあう中で、偏見を持たれたり、差別されたりしないか、気に掛けてくれていたのです。そんな母の気持ちが、やっと分かりました。母もつらく、悲しかったと思います。

日本語を話し、同じように生活していても、外国人である母には色々な制約や区別があります。例えば国に税金は納めているのに、選挙に出られないことや、署名できる書類が限られていることなどです。しかしそれらのことは、変えていけることではないでしょうか。外国人が、日本で嫌な思いをしないように、そして、周りの人も辛い気持ちにならないように。

そのためにも、私が一番にすべき事は、「自分を変えること」だと気付きました。小学生の頃の自分こそ、本当の自分なのだと思います。1年生の頃の私は、興味本位で見られることを恐れて、大切な物を見失っていました。そして母を悲しませてしまいました。それは自分も母を差別していたということなのです。

3年生になった私は、母のことを聞かれても堂々と答えられるようになりました。そして何よりも自分が母を励まし、笑顔にしていきたい。そう思っています。

今、日本で生活している外国人は数多くいます。中には差別に苦しんでいる人や不安を持っている人もいます。私の存在はとても小さいけれど、偏見や差別に悩む人たちの力になりたい！

幼い頃訪れたラオスでは、大人も子どももとても親切にしてくれました。言葉は通じなくても、身振り手振りでいろんな事を教えてくれました。国籍や人種を越えて通じ合う心を信じて、世界に貢献できる人間を目指していきたいです。



優 秀 賞

プレッシャーの先へ

奥出雲町立仁多中学校
3年 藤井 淳史

プレッシャーに弱い。これは、僕の最大の弱点です。大事な場面で、言い間違えをすることはしょっちゅうで、自分でも本当に嫌になります。

去年、僕は学校の代表として、郡の弁論大会に出場しました。学級の弁論大会でも緊張していたのに、毎日がプレッシャーとの闘いでした。友達から「良かったね。頑張ってる。」と声をかけてもらい、うれしい気持ちもありましたが、プレッシャーも感じました。それらは全て、自分に対する期待だと考えていたからです。期待に応えなければならぬと思えば思うほど、失敗などありえない、と不安は大きくなる一方で、自分で自分を追い詰めていました。練習をすればするほど、誰のために、何のためにやっているのか分からなくなり、最終的には、ミスをしたって死ぬことはないと考えて自分で自分を納得させたこともありました。

そのまま弁論大会当日をむかえました。ただ読めばいい、棒読みでもいい、ミスをしなればいい、そんな言葉が頭の中で繰り返されていました。当然、結果が良いはずありません。僕は周囲からの期待によるプレッシャーに負けたのです。

2月、僕は、生徒会副会長として、卒業式の送辞をすることになりました。想定はしていたものの、この時のプレッシャーは、郡の弁論大会の比ではありませんでした。正直、弁論大会の時と同じようにやればいやとも考えていました。しかし、先生に「誰のために、何のために、君がするのか考えなさい。」と言われ、はっとしました。卒業される先輩にきちんと感謝の気持ちを伝えなければならない。きちんとやり遂げたいという思いが膨らむと、プレッシャーに対する僕の考えも変わっていきました。こんな名誉なことをさせてもらえる、自分にできる精一杯のことをしたいと思い、練習に対しても、

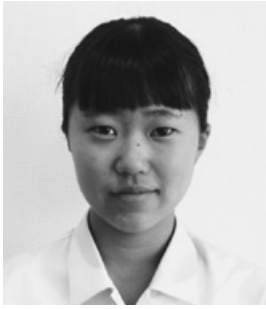
とても前向きに取り組みました。

当日、僕はものすごく大きな緊張の中、マイクの前に立ちました。卒業生を目の前にし、身の引き締まる思いで、話し始めました。僕にとって大満足というわけではありませんでしたが、やりきったという思いが強く残りました。自分でやろうと決めて努力して努力してやり切ったときに感じた思いは、今までに味わったことのないもので、僕にとって特別なものでした。「できないかもしれない」そう思うことでも、強い思いを持って挑戦した先には、成長した自分を感じました。だから、小さな目標の達成を積み重ね、それを自信にして、さらに高い目標にたどり着けるように、努力することを惜しみたくはありません。

今までの僕は、周囲からの評価をあまりにも気にしすぎていました。だから「失敗する恐怖」を「プレッシャーに弱い」と言い訳をして、逃げていたのだと思います。でも、僕がプレッシャーだと思っていたのは、今思えば、僕への励ましや応援でした。周囲の期待を力に変えることで、自分の力を最大限に引き出すことができると、僕は気づくことができたのです。

僕は、今までいろいろな人に応援されてきました。進路のことを考えたとき、僕はふるさと奥出雲町で、たくさんの温かさに支えられて成長してきたことに気づきました。僕は、この町の温かさや絆を次の世代につなげ、よりよい町にしていきたいです。

僕には今、夢があります。将来、奥出雲で起業し、まちづくりに貢献したい、そう考えています。今後、地域を盛り上げ、つなげていくのは、僕たち10代のがんばりにかかっています。夢に向かって進む中で立ち止まりそうになったら、周りの人の支えを思い出し、プレッシャーを力に変えて、夢を実現していきたいです。



優 秀 賞

今を「生きる」

松江市立第二中学校
3年 灘 和夏奈

「今を生きている」そういう実感が皆さんにはありますか。生きていることを、幸せだと感じながら生活していますか。

私の母は弟を妊娠したとき「生存確率50パーセント、流産の確率50パーセント」と宣告されました。寝たきりの3ヶ月。やっと安定し、ホッとしたのもつかの間、その後も早産の危険、弟の心拍数の少なさなど心配は尽きず、2歳の私を友人に預けることもあり、外で遊んでもらえないストレスで夜泣きする私を抱いて、母は星空を見上げながら涙することもあったそうです。だからこそ、多くの試練を乗り越え、この世に誕生した弟は、まさに奇跡。私達家族の宝物になりました。でも、それは弟に限らず、今ここに生きている全ての人にも言えるのだと思います。生まれて、生きていること、そのこと自体が奇跡なのだとは私は思います。

弟が生まれてから、私はお姉ちゃんぶってたくさん世話をしました。今では弟に助けられることもよくあります。テニスの腕前が私よりずっと上で、大会で惜敗した時は、「よく頑張ったじゃん」と声をかけてくれました。上から目線に、ムツとしたり時にはストレスがたまったりすることもあります。でも弟の誕生にまつわる話を聞いてからは余計、こんなふうにケンカができることさえ、幸せなことだと思ふようになりました。

家族に限らず、他者と関わることは、自分の思うようにはいかないこともあって、ちょっと面倒くさいなとか、煩わしいなと思うこともあります。でも、やっかいだからむしろ、おもしろいのかも知れません。家族、友達など自分の身近にいる大切な人を、励ましたり、一緒に苦しみや悲しみを経験したりして、顔を見合わせて笑えること。こうした日常の中に幸せを感じる瞬間が、私にはたくさんあります。

少し前に、「明日は何が起こるか分からない

し、明日死んじゃうかもしれないから、今頑張ったって無駄じゃん。」こんな会話で笑いが起きているのを聞いて、何だかとても残念で、悔しい気持ちになったことがありました。何気ない日常は、当たり前のことと思っているのかもしれませんが、実は決して当たり前のことではないのです。7月の記録的な集中豪雨では、災害によって多くの命が突然奪われ、たくさんの方のいつもの生活が一変してしまいました。他人事ではないと、連日の報道に胸が締め付けられます。かつて地震や津波で、また病気や事故などでも、明日を生きることを疑わずにいた、たくさんの方の未来がとざされてしまいました。そう考えると、今私達がこうして生きている日々は、改めて、かけがえのない一日一日に思えてきます。母が一つの命を必死で守ったこと、弟がこの世に誕生し、今は元気で私の日々を彩ってくれることも、当たり前ではなく、生きるための努力の結果だったのです。

次第に、今生きているこの時間を、丁寧にしっかり生きていくことが、私がここに生きている意味なのだとは強く思うようになりました。どうせやるなら、一つ一つのことを全力で頑張ろうと意識していくうちに、部活動や行事に積極的に頑張る自分がいました。以前よりずっと周囲の人が精一杯生きている姿も感じるようになりました。私は自分の「生きる」意味を考えたことで日々の生活がより豊かになりました。皆さんも、自分の生きる意味を考えてみてください。それだけで、明日への思いが変わるかも知れません。

未来のことなんて誰にも分かりません。でも、今を丁寧に生きる。この積み重ねが未来につながっていくことは確かです。だから、今をかけがえのない命を、しっかり生きていきましょう。未来に向かって。



優 秀 賞

集団の中で「自分」をもつこと

出雲市立湖陵中学校
3年 中尾 七奈子

みなさんは自分の意志を持ち、はっきりとそれを集団の中で出せていますか。

私は、集団の中にいると、心の中で思っていることを、いつも口に出すことができませんでした。正直、誰かが言ってくれるだろう、とか私が何か言ったところで、どうせと思っていました。それに、私が反対の意見を出せば周りにどう思われるのか、そんな不安もありました。例えば、クラスで話し合うときに「否定されたいやだ」という自己防衛のために意見が言えず、自分の意志を出さないといけないとわかってはいたけど、そんな勇気がありませんでした。

こんなこともありました。クラスの中に雰囲気の違いでAとBの二つのグループがありました。私はどちらかと言えばAグループでしたが、Bグループの人とも仲良くやっているつもりでした。しかし、Bグループの人と話しているとき、Aグループの人の悪口を言い始めて、私はそんなこと思ってもいないのに、つい「だよね。」といつものように同意してしまっただけです。でもそれがAグループの人に伝わってしまい、深く傷つけてしまいました。

私はそんな自分が好きではありませんでした。自分の思ったことを素直に言えない弱い心、勇気の無さが恥ずかしくあさっていました。

そんな後悔だらけの毎日が続く中、ある日、私がテレビを見ていると、ある有名人がこんなことをいっているのを耳にしました。「もちろん私にも迷いや不安はあります。しかし、挑戦することのリスクよりも何もしないリスクの方が大きいと思えば勇気が湧いてくるのです。」私は一瞬ドキッとしました。まるで今の私に言っているように感じました。そして、私の中で何かごちゃごちゃしていたものがスッと消えていくような気がしました。

その日から、私は自分の思ったことはちゃん

と口に出すようにしました。自分の意志を捨てずに大切にしようと思うようになりました。それが私の中での本当の生き方なのです。

私は吹奏楽部の部長をしていましたが、コンクール前に雰囲気が悪くなったとき、部活動に対する思いをみんなの前で時間をかけて話しました。すると、みんなに伝わったのか、空気が変わり、コンクールでは良い結果を残せ、大きな自信になりました。それからつい最近あった体育祭の準備では、特に役職があったわけではないのですが、スローガン決めで自分の考えを出したり、色別会では「もっと声を出そう！」とみんなの前で言ったりしました。

自分の意志を集団の中で言えるということがこんなにも嬉しく清々しいことだと初めて気づきました。

多数の意見に賛成していれば傷つく心配はありません。でもそうしてしまうと個人の意見はかき消され、ひとまとめにされてしまいます。周りや調和しながら、自分の意志を伝えることは、本当に難しいことです。しかし、あの有名人の言葉のように挑戦しないで後悔するより、挑戦して失敗した方が何倍もかっこいいと思います。

その言葉は、本当にあなたの本心でしょうか。

私はこれからも周りに流されず、自分の意志を大切に生きていきたいです。



優 秀 賞

弟の存在

安来市立伯太中学校
1年 宮本 典佳

「さっきの子って、障がい者ですよね？」

私は、その言葉にびくっとしました。

私の弟は生まれつき、ダウン症のため、人より少し脳と体の発達が遅いところがあります。そのせいか、大きくなった今でも、言葉をはっきりと話すことができません。

だからといって、全く話せない訳ではありません。少しずつ話すことが上手になっていて、相手の話も理解してくれるので、会話もできます。とても表情が豊かで、素直なので、私自身もいっしょにいて楽しいです。

少し字の読み書きができるようになってきたある時、祖母が「習字を習ってみたら？」と言って、習字を習うことになりました。私は最初、弟が目立っていて恥ずかしく思ったけれど、それは仕方がないということに気づき、気にしなくなりました。

そんなある日、いつものように習字を習っている時、野球を習っている小学生がやってきて、弟を見つけると、「君、何年生？」と話しかけてきました。すると弟は、恥ずかしくなったのか、机の下に隠れてしまいました。それを見た小学生が、「お菓子、いる？」と聞いてきて、弟は「ありゅがとうう。」と言って受け取りました。

弟が帰った後に、小学生が、「さっきの子って、障がい者ですよね？」と、習字の先生に聞きました。私はその言葉にびくっとしました。

先生は何と答えるだろう。もし「そうです。」と答えたら、小学生は弟をバカにするのだろうか？私と弟が姉弟だということは言わないでほしいな。と、色々な不安を抱きながら、会話を全身で集中して聞いていると、「いいえ、違います。」と先生は答えました。

その瞬間、私は、何かが絡まったような感覚を覚えました。

先生はなぜ「違います」と言ったのだろうか。そしてなぜ、障がいがあることを言わなかったのだろうか？障がいをもっていることを知られたら、何か問題があるのだろうか？

私が予想していたことと、あまりにも違った答えにとまどいました。そこでやっと、私が思っていた「私と弟が姉弟だと言わないでほしいな。」という不安が間違っていることに気付きました。

私は以前、約束が守れなくて、父に叱られている弟の姿や、走ったり書いたり、自分たちが普通にできることができなかつたりする弟の姿を見て、かわいそうだなと思いこんでいました。しかし、あらためて人に言われると、弟が音楽や体育の授業で友達と楽しそうにしている姿を思い出して、弟は決してかわいそうではないと思いました。

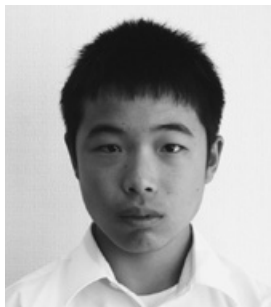
人はみんな、それぞれの個性があります。私も運動が苦手ですが、それも個性です。その人の目立つ所や、苦手な所など、一部だけを見て、その人自身をこんな人だと決めつけてしまうことは、その人の良い所を否定していることにもなります。

弟も、約束が守れなかつたり、周りと同じ行動ができなかつたりするなど、苦手な所もありますが、それも個性だと思います。

今思うと、先生は弟を守るために、障がいがあることをわざと言わなかったのではないかと思います。その時に、何も言えなかった自分が私は許せません。

「さっきの子って、障がい者ですよね？」

今もし、そう聞かれたら、私はこう答えます。「はい、そうです。苦手な所もありますが、良い所もたくさんあります。一緒にいてとても楽しいです。私のかけがえのない弟です。」と。



優 秀 賞

向日葵とオオチドメ

浜田市立三隅中学校
3年 河野 寛生

皆さんは夏に咲く花と言えば何を思い浮かべますか。おそらく、背高で鮮やかな色を身にまとう向日葵を思い浮かべる人が多いと思います。逆にそれ以外の花となるとどうでしょう。以前の僕は、絶対にそれらを思い浮かべることはできませんでした。しかし、僕はある花と出会い、今では夏にたくさんの花たちが生きていることを知っています。

祖父の家に行ったときのことです。360度の視界を埋め尽くす緑の中で、僕の目を引いたものがありました。それは、土手に広がった緑の中に咲く、直径5ミリほどの、やはり緑色をした花です。帰って調べてみると、「オオチドメ」、土手や田んぼの畦や藪に生える夏の花だとありました。写真で見ても華やかさとはほど遠く、誰も気にも留めない地味な花で、率直に「向日葵と正反対だ」と感じました。しかし、僕はこの花に強く惹かれました。

僕がオオチドメに惹かれたのは、その目立たないところなのです。向日葵みたいな派手な魅力はないけれど、懸命に、誇りを持って生きているように感じたのです。

これは人間世界でも同じことだと思います。テレビ番組が良い例です。ニュース番組はアナウンサー、バラエティー番組は芸能人、スポーツ番組はスポーツ選手などが、名前も顔も知られて、向日葵のように注目を浴びます。しかし、テレビ番組はそれらの人たちだけでは成り立ちません。多くの人たちが裏で支えています。しかし、その人達は注目を浴びず、名前も顔も知られません。まるでオオチドメのようです。つまり向日葵の方に目がいきがちですが、オオチドメのような存在がなければこの世の中は成り立たないということを、改めて思いました。

僕自身、自分を花にたとえるなら、オオチドメではないかと思います。元々僕は、リーダーとしてどんどん人を引っ張っていくといったこ

とは得意ではなく、サポートの立場の方が安心するし、好きです。

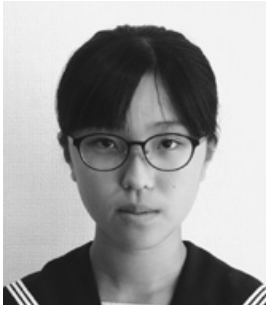
野球では、1・2年生の時は、先輩方のサポートにやりがいを感じていました。しかし、上級生が引退し、僕はキャプテンという立場になりました。時にはピッチャーとしてマウンドに立つこともあり、注目を浴びる立場になったと感じました。しかし、それによって、苦しくて悩むことも増えました。僕の同級生は皆おだやかな人ばかりで下級生のプレーや態度に注意する人がいませんでした。ですから、キャプテンの僕が、積極的に注意しました。しかし「少し言い過ぎたかな」「言い方が間違っていないかな」などと、注意すればするほど後悔がでてきてとても苦しかったのを覚えています。でも、その苦しさがあったからこそ成長できたと感じています。

このことを通して僕は、一見華やかに見える立場には、それに応じた悩みや苦しきがあるということを知りました。そして、向日葵のように注目を浴び、堂々とそこに立っていられるほどの自信が持てる人、また、オオチドメのように陰でも懸命に生き、輝くことができる人、そのどちらも大切な存在で、それぞれに、喜びも苦しきもあるということ強く実感しました。

そして、「自分は向日葵だとか、いやオオチドメだ」などといったことは、とても小さなことなのではないかとも思いました。人の魅力は、どんな立場にいるかではなく、そこでどう輝くかだと思うのです。僕たちはこれから様々な経験を積み、どんな立場にもなりえます。そのそれぞれの立場に立って、いかに自分が頑張れるかが重要になってくると思うのです。

最後に、向日葵とオオチドメは対照的な花ではないのです。どちらの花も、自分らしく生き、美しい花を咲かせているのです。

この夏、オオチドメの花は僕の心に鮮やかに咲く花となりました。



優 秀 賞

「普通」って何だろう

益田市立横田中学校
1年 佐田 治子

いつもよく聞く「普通」とか「あたり前」という言葉。基準は誰が決めるのでしょうか。もし、いつも「あたり前」にできていることが、できなくなったら、まわりから「おかしい」とか「変」とか言われます。「あたり前」じゃないことが、「普通」だと思って生活している人もいるのに。

私のいとは、生まれつき障がいがあります。周りがざわざわした環境で集中することが特に苦手です。親戚が集まったときなど、みんなが楽しそうにしていると、機嫌を悪くして急に部屋を飛び出すことがありました。そのとき私は「なんでみんなと違うんだろう」と困ってしまいました。私は、「障がい」について何も知らないまま、いとこと暮らしていたのです。

そんな時私は、一冊の本を手に入りました。その本は、ひかるくんという自閉症の男の子と、その家族の話です。例えば、塗り絵をしていて、先生から「花に赤い色をぬってください。」といわれたら、普通は目の前の紙に色をぬります。しかし、ひかるくんは、外に飛び出し、庭に咲いている本物の花に色をぬろうとします。今、「え？バカじゃない？」とか「頭おかしい」とか、感じた人もいると思います。

そこで私は、「普通」について考えました。私が、知的障がいについて、まだ何も知らなかった時は、心のどこかで、同じようにひかるくんの行動を「おかしいな」と感じていたと思います。でも、みんなにとっての「普通」とひかるくんにとっての「普通」は違うのです。

そこで私は思います。障がいがある人と、うまく関わるためには、周りの人の理解が必要になっていくと。ひかるくんにとっては、紙に描いてある花は花ではありません。だから、外に咲いている本物の花に色を塗ろうとしたのです。そう考えると、ひかるくんは先生の言うこ

とを正しく一生懸命に聞こうとした素直な人だといえます。捉え方が、ただ違っただけです。この違いを理解できれば、ひかるくんはバカではないし、おかしいことはしていません。

この夏、いとこがおじいちゃんの家に戻ってきました。一緒にごはんを食べていると、いとこはいろんな人に話しかけられていました。でも、どこか聞いていないふうに見えました。そこで、私が話しかけるときには、目を見て話すことや、いとこと同じ動きをとってあげるように工夫しました。そうすると、いとこと、とても楽しく過ごせました。

人から「普通」をおしつけられると、自分にとっての「当たり前」を表現できなくなります。だからこそ、これからは「普通」を求めずに、私が、私たちが、お互いの違いを認め、困っている人に気づいたら、その「違い」を理解しようと思うことが大切だと、最初の一步となるのだと確信しました。

そのようなことがわかった今、私は、いとこのこれからの関わり方について考えました。いとは、私と同じ年ですが、小柄で、身長は130センチもありません。同い年の私からして、昔は「何か違うな」と思うこともありました。一言で「自分の普通を相手におしつけない。」というのは簡単ですが、実際に行動してみるのは、すごく難しいです。いとこが小柄だということも、いろんな本を読んだり、自分で考えたりする中で、理解できるようになりました。これからも、行動することの難しさから逃げずに、相手を尊重し、理解する努力を続けていこうと思います。お互いが認め合える世の中を作るために。



優 秀 賞

繋がる喜び

川本町立川本中学校
1年 遠藤 ルツ

みなさんは、「ヘアードネーション」という言葉を聞いたことがありますか。

ヘアーは髪、ドネーションとは寄付を意味します。病気などのために髪の毛を失った人が使う、医療用のカツラの材料として自分の髪を寄付することがヘアードネーションです。

私は3年前までその活動のことを知りませんでした。愛媛に住む祖父母の家に行ったとき、祖母からヘアードネーション活動について教えてもらったのです。それは髪の毛を伸ばし、31センチ以上の長さに切った髪を、活動団体に寄付するというものでした。

私はそれを、軽い気持ちで聞き流していました。祖母は、私の長い髪が重く、うっとうしく見えたのかもしれない。だからそんな話をして髪を短くさせたいのではないか。そんな風にも思い、あまりいい方にはとらえていませんでした。

そして、次の年を迎えました。祖父母の家に行くとき、祖母はまた同じ話をしてきました。「1年も間が開いていたのに。祖母はその間ずっと、病気の人のためにできることを考えていたんだ。」私は1年かけて、ようやく祖母の思いを受け止めることができました。

それから、私は髪を伸ばし始めました。プールの授業が始まって、暑くてたまらない夏でも、切るのをやめました。

伸ばし続けていると、今度は違った思いが生まれました。「いろんなことに気を遣いながらやっと伸ばした髪なんだから、切るなんて、もったいない。」とか、「自分が一人参加したところで、たいした意味はない」といったような、髪を切ることに後ろ向きな思いになってきたのです。

そんな私の気持ちを改めてくれたのが、姉です。

姉も、数年前にヘアードネーションのために髪を伸ばしていた時期がありました。姉は私と同じように祖母から話を聞いたときに、もう髪を送る決意をしていたそうです。

「自分にあるものが、たとえ多額のお金でなくても人の助けになることは、とてもうれしい。」と語ってくれました。

姉は、私に気づかせてくれました。今、自分に取り組んでいることの価値の大きさを。

それから、自分でもヘアードネーションの活動について、調べてみました。病気の治療で髪の毛を失った子供たちは、治療が苦しいだけでなく、以前の自分の姿と比較して、気持ちがふさぎ込んだりするそうです。そのような子供達の明るさや元気を取り戻すことを思えば、私の髪の毛を切ることは、とても小さなことのように思えました。

そして、今年ついに髪を切り、宮城県の活動団体に送りました。

自分の髪でさえ、人の役に立てる。子どもの私でも、だれかの力となれることに、心から喜びを感じています。

私はこれまで、家族や友達、地域の人との繋がりの中で育てられてきました。そして今、目には見えないけれど、もっと大きな繋がりの中で生きていることを実感します。

私の力は小さいですが、決して無駄にはなりません。誰かの、何かの支えになりたいという思いは、きっと繋がりを、結びついて、やがて大きな力になります。それは不思議なことに、私自身の喜びとなります。

私たちは、社会の中で過ごしていても、つい自分のことを中心に考えてしまいがちです。人のために何かをすることを、避けてしまうときがあるかもしれませんが、本当はそうではありません。お互いに支え合うことが、それぞれの喜びにつながると思います。

今、私は再び髪を伸ばしています。次に髪を送るには、あと2年は伸ばし続けなくてはなりません。だれかの力になりたいという思い、そして行動に移す喜びを胸に抱き、日々の生活を過ごしていきます。



優 秀 賞

私を成長させてくれた出会い

松江市立玉湯中学校
2年 長谷川 結菜

「いつでも来てくださいね。」

7年経った今でも、私の心の中に優しく響く言葉。

私が、こう声をかけられたのは小学校1年生の冬休みでした。玉湯に引っ越してきたばかりの私は、不安でいっぱいの日を送っていました。そんな私に、優しく声をかけてくださったのが、本を借りに出かけた玉湯公民館の職員の方でした。そんなふうに話しかけられるとは予想もしていなかったので、まだ誰一人知り合いのいない玉湯の町が少しだけ身近なものとなりました。さらにその方は公民館主催の行事も紹介してくださいました。それを聞いて私は、「とても楽しそうだな。これまで住んでいた町と同じように楽しく過ごせそうだな。」と、少しだけ安心しました。

これをきっかけに、友達を誘って公民館の行事に参加するようになりました。最初は陶芸など、普段はなかなかできないことをしてみたいという気持ちで参加していました。しかし、参加を続けるうちに地域の方との交流も増え、町で出会うと声をかけられるようになりました。玉湯の皆さんに受け入れてもらった気がしました。

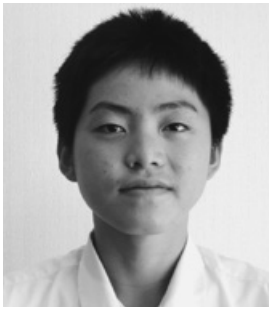
あれから7年。公民館行事を通して、私は多くのことを学び、少しずつ成長できたように思います。特に、「積極的に自分から進んで行動すること」と「何事にも興味をもって挑戦すること」、この二つは自分でも大きな成長を感じています。「ジュニアリーダー育成研修」には、小学校4年生から6年生まで、参加しました。1泊2日のキャンプでしたが、異なる学年の友達と班を作り、自分たちでテントを立てたり、ご飯を作ったりしました。学年が上がると、班長などの役割を任されるようになりました。協力して何かをやり遂げる楽しさを味わいなが

ら、リーダーとして、みんなの先頭に立って積極的に活動することの必要性を感じた研修でした。

また、いろいろな行事に参加することで、「これができたら、あれもできるかな。」と、挑戦してみようという気持ちになりました。例えば、5年生の時に参加した「花仙山めのうウォーキング大会」での達成感が三瓶山や大山登山への挑戦につながりました。このとき味わった達成感は今でも忘れられません。

玉湯公民館は小さい子どもからお年寄りの方まで、幅広い年齢層の人たちをつなぐ場になっています。館長さんや職員さんも気軽に声をかけてくださいます。1学期の始業式に校長先生が、私たちに出会いを大切にしてほしいというお話をしてくださいました。出会いとは、「場所」との出会い、「人」との出会いです。私にとって公民館は、まさにその『出会いの場』でした。

私は生まれ育った町が大好きでした。だから、玉湯に引っ越してきた時は寂しくてしかたがありませんでした。でも、今は「この玉湯が大好きです。」と、自信をもって言えます。玉湯は私の自慢のふるさとです。これからも、私を成長させてくれたたくさんの皆さんとの出会いに感謝しながら、ふるさと玉湯に恩返しができるよう、もっと成長したいです。そして次は、私が人と人をつなげられるようになりたいと思います。これからの新しい出会いを大切にしながら。



優 秀 賞

人とつながる

益田市立真砂中学校
3年 岡崎 永太

「おはよう」、僕の一日はこの一言から始まります。家でも、学校でも「おはよう」と元気よく言うことで、とても良い一日が過ごせるような気がします。

「こんにちは」

「お帰りー。今日は学校どうじゃった。」

「今日も一日暑くて大変でした。」

「ほんと、暑かったねえ。明日もがんばってよ。」

「ありがとうございます。さようなら。」

学校帰りの僕の、よくある一場面です。ゆるやかで長い上り坂を自転車で上っていく僕は、向かい側からウォーキングで下ってこられる地域の方とよく出会います。あいさつと、ちょっとした会話。何気ない会話ですが、ホッとするとときです。

ある日、僕の母から、
「いつも出会った時に声をかけてくれて、とてもうれしい、とても元気が出る、と近所の方が言っていたよ。だからこれからも出会ったときはあいさつをしたらええよねえ。」

という話を聞きました。僕は、自分のちょっとしたあいさつが、こんなにも喜んでもらっているのだとわかって、自分自身も、うれしくなりました。あいさつは人を元気にすることができるんだなと思いました。

しかし、僕は初対面の人とコミュニケーションをとることは苦手で、自分から声をかけたり、話をふくらませたりすることができず、いつも不安を感じていました。

先日職場体験で市内のレストランに行ったときも、初めのころはとても緊張していました。その時に、シェフや従業員の方が、あるお話をしてくださいました。それは

「あいさつや返事は、大きな声でした方が良いでしょう。これから高校に行ったり、仕事に就いたりするでしょ。その時に、あいさつをしない人よりも、大きく元気な声であいさつや返事ができる人の方がたくさんの方が親しみやすくて、信頼されるんだよ。」

というお話でした。実際に接客の仕事をするこ

とになったとき、初めは緊張から、

「いらっしゃいませ」

と言うことさえも難しかったです。でも、あいさつが大事という話を思い出して、(よし、やってみよう)と思い、だんだんと元気な声を出すことができました。すると、お客様も

「ありがとう」

「がんばってね」

と声をかけてくださり、やりがいを感じるようになりました。

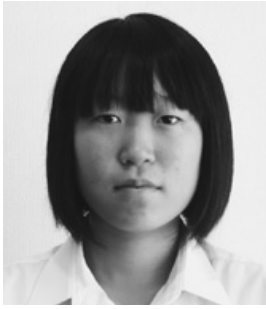
あいさつで人とのかかわりを深められることがわかりました。

また、僕は最近、講演会や交流会などでグループ活動をすることがあり、そのときにたくさんの人たちに出会います。周りは知らない人ばかりですが、ちょっとした勇気を出してあいさつをするようにしています。そうすることで話すきっかけも生まれてくると感じています。

あいさつの言葉は、目には見えません。言葉にした瞬間に、消えていってしまいます。でも、僕が「こんにちは」と言ったその瞬間に、僕は見えない「手」を差し出しているのです。その「手」を受け取って、相手が「こんにちは」と握り返してくれたとき、そのつなぎ合った手から手へと温かいものが流れます。例えば、初めて出会った人への「よろしく」「仲良くしよう」という思い、あるいは、地域の人からの「いつもお疲れさま」「頑張ってるね」といった、いろいろな思いです。あいさつをしなれば、その思いは、何も伝わりません。

だから皆さん、たくさんの人に挨拶という「手」を差し出してみてください。最初は形だけでも、普段からあいさつを心掛けていると、自然と身につけることができます。そうすることで、新しい出会いを見つけたり、地域の温かさを感じたりすることができると思います。

そのあいさつから始まる人とのつながりを大切にするために、僕はこれからも元気よく、あいさつという、見えない「手」を差し出していきます。



優 秀 賞

今の私たちにできること

江津市立江東中学校
3年 安部 愛理

私の住む黒松地区は、江津市東部に位置し、自然豊かな黒松海岸を有しています。しかしこの地区では今、高齢化が進み、人口減少の問題があります。現在、江津市の人口は2万4,172人。そのうち、私の住む黒松地区の人口は389人で、高齢化率は48.6%です。10年後、黒松の人口は297人、高齢化率は52.9%という予想が立てられています。このまま高齢化が進めば、さらに多くの問題、不安が出てきます。

以前私の母は、地域で行われたワークショップに参加しました。そこで黒松地区の高齢化、人口減少の現実を知り、私にも聞かせてくれました。黒松地区でずっと続いている行事や活動が、人手不足で、これまでのやり方では続けるのが困難であるという話題が出たようです。

母の話聞き、今の黒松地区で地域に住む方々がどんなことを続け、残していきたいのか母に聞いてみました。母の口からすぐに出たのは「夏祭り」です。「夏祭りは黒松の地域にとって大切な祭りで、地域みんなが毎年楽しみにしている行事なんだよ」と話してくれました。

毎年夏に行われる黒松の夏祭りは、伝統行事の一つです。夕方になると、神様を迎えに行く船の灯りが海を照らし、黒松中に太鼓と鐘の音が響きわたり、自然と浜辺に人が集まってきました。威勢のよいかげ声とともに、大人たちは御輿を担いで浜辺を走り回ります。

私は、この黒松の祭の雰囲気、太鼓、鐘のリズムや音が大好きです。ですが、高齢化がすすみ、神輿を担ぐ人手が減り、浜辺で祭りを見守り、楽しむ人の数も減りました。「最近祭りも淋しくなってきた」。夏に祭りが近づくと地区の中のそんな声が、自然と私たち子どもの耳にも入ってきます。

私はこれまで、親、そして優しい地域の方々に支えられ、成長してきました。自分が生まれ

育った町の伝統行事が守れるよう、もっと地域に関心を持ち、自分にもできることはないかと考える目線を持ちたいです。

そのための第一歩を踏み出したいと思い、公民館を訪ねました。そして、地元の藤田さんから祭りのいわれについての資料をいただき、次のようなことがわかりました。

祭りが行われる大島神社には、海の女神がまつられていること。航海安全と豊漁を祈る祭りであること。200年以上も続いていること。明治41年頃より今の私が知る形となったようです。丸2日間も、祭りでにぎわっていたと、小さい頃から聞いていましたが、この資料を読んで、さらに深い祭りの歴史を感じることができました。地域の方々が、私たち若い世代に期待されている思いや願いを、これからも自分自身の目や耳、心で感じていこうと思います。

「年々祭りが淋しくなってきた」とささやかれる声を、「最近若い子が祭りを盛り上げてくれてうれしい」という声に変えていきたいのです。

また、高齢者が安心して住みやすい町になるよう、一人一人が挨拶や人助けを積極的に行き、みんなが笑顔でいられるようにしていきたいです。「最近見かけないけど訪ねてみようか?」と訪ねてみたり、自分から声をかけ、ふれあったりと、一人暮らしの高齢者が孤立しないようにしていきたいです。

困った時に頼れる人がいる町になれば、信頼がより深まり、より良い町になるはずです。私たち若者の関心の持ち方一つで、黒松地区の未来は変わってくると信じています。

現在日本は、世界のどの国も経験したことはない速度で、人口の少子化、高齢化が進行しています。今を生きる私たちは、これからの未来に対して責任があるのです。できることがあるのです。



優 秀 賞

相手を思う言葉

大田市立北三瓶中学校
3年 大國 凌雅

「言葉が冷たいな」日常の生活でこんなふう
に感じることはありませんか？

例えば、ちょっとミスしただけでばかにされて
しまうこと。「〇〇さんよりあの人のほうが
できるよ」と比較されて決めつけられてしまう
こと。悪意なく発せられた言葉に責められてい
るように感じる場合があります。身近にいても
友達であっても言葉には気を付けないといけな
いと思います。

6月に大田市の職員さんに学校に来ていた
だき、認知症キャラバンの授業を受けました。そ
こで「認知症が家庭内のいじめにつながるこ
とがある」という話を聞きました。「ほけとるん
じゃない」「何回もいってるよね」つい言って
しまう言葉が、高齢者を傷つけてしまうこと。
少しのミスで「もういい」と相手にされな
い。物忘れをただで「認知症じゃないの？」と
からかわれる。弱い立場の人の居場所はどこに
あるんだろうと思いました。

僕たちは、市の職員さんと一緒に寸劇をして、
認知症の方への対応についてグループで話し合
いました。

「わしの財布がなくなったが？」という言葉
に対して「いつもなくしてるでしょ。毎回毎回。
ほけとらへん？」というのは悪い対応です。そ
の時の自分のイライラが先にたって、きつい言
い方をしています。ミスや忘れてしまうことが
あると責めてしまい相手を追いつめていました。

反対に良い対応は、目を合わせ、相手の話を
まず聞いて、それを受け入れていました。「そ
れは心配ですね。一緒に探しましょう。」相手
の間違いにも寄りそえる、温かな言葉、丁寧な
対応が優しいなと思いました。

「認知症」は誰にでも起こりうる脳の病気
です。言葉一つで相手の気持ちが変わり、家族
が明るくも暗くもなるということを知りました。

僕は昨年、職場体験で介護福祉施設に行きま

した。「早く仕事を覚えたい」という気持ち
があった僕ですが、「ただ形だけ覚えればいいの
ではない。」と気づきました。スタッフの方が
利用者さんを迎える姿は、笑顔と優しさにあ
ふれていました。リハビリの時も「大丈夫ですよ」
「ほらできたでしょ」嬉しい言葉でいっぱい
です。そんな姿に「ここは弱い立場の人が集ま
って過ごすところ」ではなく「一人一人が自分
らしく生きる大切な場所なんだ」と感じました。

言葉一つで、対応一つで相手の気持ち
が変わってしまう。日常生活にもよくあること
です。「言葉が冷たいな」と感じたとき、自分
がどう行動すればよいのだろうと考えました。

「相手がいやな思いをしているのに気づか
ず自分は笑う」そんな笑いは冷たいです。本来
なら生徒会長である僕は注意し、悪い点を指
摘して、リーダーとして、き然とした態度を
とるべきです。でも僕は、残念ながらそうい
うことは苦手です。だから、違うやり方で行
動に移しました。誰かがミスをしたら責める
のではなく、具体的な改善策を提案するよう
にしました。お互いサポートして「次頑張ろ
う」と声を掛け合いました。すると、ぎすぎ
すした感じがなくなっていきました。「いいも
のを作りたい。」という気持ちはみんな同じ
なので、達成感がありました。

以前の僕は「言葉が冷たいな」と感じる
だけで、何も行動していませんでした。でも、
自分なりのやり方で行動を変えてみると、ま
わりの雰囲気が変わり、言葉の冷たさを感じ
ることが少なくなりました。自分の足りない
ところにも気づくことができました。

これらの体験を通して「自分や相手も大切
にするために、まず自分が変わることが大切
だ」と気づきました。温かな言葉と笑顔で優
しく人とふれあえる、そんな人になりたい
です。

皆さんも、相手を思う言葉について考え、
自分の行動を変えてみませんか？

平成30年度 少年の主張島根県大会開催要項 (第47回 島根県少年弁論大会)

- 趣 旨** 中学生自らが社会の一員であることを自覚し、責任感に目覚め、健やかに成長することが求められている。この「少年の主張島根県大会」は、明日を担う中学生が日常生活を通じ、日頃考えたり感じたりしたことを広く発表することにより、中学生の自立心を育てる機会とするとともに、視聴する親や大人の青少年健全育成に対する深い理解・関心、協力を求めようとするものである。
- 主 催** 青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：安来市中学校長会）
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- 共 催** 安来市教育委員会
- 後 援** 島根県 島根県教育委員会 島根県警察本部 安来市
安来市青少年育成連絡会議 島根県 P T A 連合会 安来市 P T A 連合会
- 開催日時** 平成30年9月27日（木） 10：30～15：30
- 開催場所** 安来市総合文化ホール アルテピア
〒692-0014 安来市飯島町70（電話：0854-21-0101）
- 発表者** 中学校に在学する者（国籍は問わないが、日本語で発表する者）で、市郡中学校長会長より推薦された者。（市郡別の定員は別表のとおり）ただし、県大会開催市郡に限り定員より1名追加して推薦することができる。（発表順は別途事務局にて抽選）
- 実施方法**
 - 発表時間 5分程度（6分以内を厳守）とする。（400字詰原稿用紙4枚程度）
 - 発表内容 ①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び、身の回りや友達との関わりなど。
③テレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。
以上、3つの中のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、中学生らしい自由でユニークな発想で、飾り気のない言葉でまとめたもの。また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。
- 審査員** 別に定める。
- 表 彰** 審査の結果、次の区分により発表者全員に賞状及び賞品を授与する。
島根県知事賞 1名（県代表） 島根県教育委員会教育長賞 1名
島根県警察本部長賞 1名 青少年育成島根県民会議会長賞 1名
審査員特別賞 2名 優秀賞 11名
- 発表者の交通費等** 発表者の交通費及び昼食は主催者が負担する。
- 発表者名簿・発表原稿の提出**
各市郡中学校長会長は、発表者名簿・発表原稿を9月11日（火）までに青少年育成島根県民会議事務局まで提出すること。（期限厳守、FAX・メールでもよい。）
▼青少年育成島根県民会議 〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内
TEL：0852-22-6524 FAX：0852-22-6045
e-mail：nobinobi@shimane-youth.gr.jp
- その他** 県代表者の発表は中四国ブロック枠で発表原稿、録音したカセットテープ又は電子媒体で審査され、各ブロック代表者（2名）は、「第40回少年の主張全国大会～わたしの主張2018～」[主催：(独) 国立青少年教育振興機構 平成30年11月11日（日）於：東京]に出場する。

審 査 員

審査員長	山陰中央新報社特別論説委員	前田 幸二 様
審 査 員	島根県保護司会連合会事務局長	山本 登 様
審 査 員	島根県警察本部少年女性対策課管理官	三浦 洋子 様
審 査 員	松江教育事務所指導主事	西村 勝美 様
審 査 員	安来市青少年育成連絡会議副会長	山本 芳郎 様
審 査 員	安来市P T A連合会母親委員長	小藤 千春 様
審 査 員	安来市小学校長会会長	安部 清志 様

来 賓

島根県教育委員会委員	藤田 千鶴 様
島根県教育委員会委員	浦野 智実 様
島根県教育委員会委員	真田 直幸 様
島根県警察本部少年女性対策課長	青戸 忍 様
松江教育事務所長	葛西 秀也 様
中央児童相談所長	近藤 一幸 様
島根県教育研究会会長	城市 則子 様
島根県P T A連合会会長	原 完次 様
安来市長	近藤 宏樹 様
安来市議会議長	田中 武夫 様
安来市教育委員会教育長	勝部 慎哉 様
益田市教育委員会教育長職務代理	加藤 隆志 様
安来警察署長	曾田 二郎 様
安来市P T A連合会会長	安部 慎 様
安来市教育研究会副会長	高橋 和弘 様

平成30年度「少年の主張島根県大会」 市郡大会概要一覧

市郡名	学校数	出場枠	市郡大会 開催日時	市郡大会 開催場所
松江	18	2	9月6日(木)	(橋北地区) 第二中学校
				(橋南地区) 第四中学校
安来	5	2	8月30日(木)	第三中学校
出雲	15	2	9月10日(月)	第三中学校
雲南	7	1	8月30日(木)	海潮中学校
飯石	2	1	8月29日(水)	赤来中学校
仁多	2	1	8月30日(木)	横田中学校
大田	6	1	9月4日(火)	第二中学校
浜田	9	1	9月5日(水)	三隅中学校
江津	4	1	9月14日(金)	青陵中学校
邑智	6	1	9月4日(火)	田所公民館
益田	11	2	9月3日(月)	グラントワ
鹿足	6	1	9月4日(火)	柿木中学校
隠岐	7	1	9月7日(金)	隠岐島文化会館

*開催地 安来市については1名追加

アトラクション紹介

～ 安来市立第二中学校・安来節保存会～

安来市立第二中学校は、能義平野のほぼ中央にある自然に恵まれた学校です。「学校と家庭や地域との連携」に力を入れ、地域の豊かな教育資源〈ひと・こと・もの〉の活用や、伝統文化（安来節等）の継承と体験活動を充実させる等のふるさと教育に積極的に取り組んでいます。安来節の学習には、2つの大きな柱があります。

一つ目は体育祭での取組です。安来節が競技の一部門に組み入れられ、男女とも浴衣姿で本格的に踊ります。安来節保存会の講師の先生にも指導に来ていただきます。日頃お世話になっている地域の方や保護者に感謝の気持ちを込め披露します。良い踊りにするため全員が協力をするので、全校が一つにまとまります。

二つ目は、修学旅行先での安来節の披露です。ここ数年は奈良の東大寺中門前で、観光客の前で男踊り・女踊りと全員による銭太鼓を披露しています。

安来節の練習や本番での披露を通して、ふるさと安来を誇れる気持ちや、地域貢献の自覚につながっています。

今回は、二年生と保存会の皆さんで踊ります。男踊りはストーリーに沿ったユニークな表情、女踊りはしなやかな手の動きをはじめとするあでやかさ、銭太鼓は一糸乱れぬ銭太鼓のさばきをご覧ください。



東大寺中門前での銭太鼓



体育祭での男踊り

平成29年度(昨年度)の受賞者

◆島根県知事賞

カラフル

海士町立海士中学校 3年 井手上 漠

◆島根県教育委員会教育長賞

多くの足音

益田市立西南中学校 3年 豊田 麻桜

◆島根県警察本部長賞

忘れちゃいけん

津和野町立津和野中学校 2年 松浦 幸美

◆青少年育成島根県民会議会長賞

父が教えてくれたこと

大田市立大田西中学校 1年 林 芽生

◆審査員特別賞

かくれんぼ

益田市立真砂中学校 3年 瀧谷 瑠音

障がい者で何がわるい？

島根大学教育学部附属中学校 3年 田中 歩人

平成30年度 少年の主張全国大会 審査結果

期日／平成30年11月11日（日） 13時～16時

会場／国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール

	ブロック	評価結果	県名	テーマ	氏名	学校名
1	関東・甲信越静	審査委員会委員長賞	静岡県	自分を好きになる	うちやま か 内山ほの葉	はままつ しりつ さく まちゅうがっこう 浜松市立佐久間中学校
2			長野県	先生は三歳	はたけやま つむぎ 畠山 紬来	なが の しりつとう ぶちゅうがっこう 長野市立東部中学校
3			埼玉県	それぞれが尊重される社会へ	ほんま しゅうへい 本間 稔平	ひがしまつ やま しりつ きたちゅうがっこう 東松山市立北中学校
4	中部・近畿		奈良県	笑いの輪	あべ くうや 阿部 空也	なら けんりつせいしゅうちゅうがっこう 奈良県立青翔中学校
5			石川県	Do anything as you can!	すぎはら し おり 杉原史緒梨	こくりつか なざわだいがく ふぞくちゅうがっこう 国立金沢大学附属中学校
6		審査委員会委員長賞	愛知県	思いやりは言葉を超える	とみたま あく 富田真亜玖	とよた しりつ いざとちゅうがっこう 豊田市立井郷中学校
7	中国・四国		山口県	私が今できること	すえなが なつほ 末永 夏穂	はぎこうえんがく いんちゅうがっこう 萩光塩学院中学校
8		文部科学大臣賞	島根県	「ダブル」	たかなし はな 高梨 はな	おき しまちょうりつ さいごうちゅうがっこう 隠岐の島町立西郷中学校
9	九州	国立青少年教育振興機構理事長賞	熊本県	響け！幸せのメロディー	さかもと ゆう 坂本 優	みふねちょうりつ みふねちゅうがっこう 御船町立御船中学校
10			大分県	「僕を変えたきっかけ ～福岡から蒲江へ」	さとう ぎんじ 佐藤 吟次	さいき しりつかま えしやうなんちゅうがっこう 佐伯市立蒲江翔南中学校
11	北海道・東北	内閣総理大臣賞	山形県	人生を駆け抜ける	いわぶち あやめ 岩淵 礼姫	てんどう しりつだいさんちゅうがっこう 天童市立第三中学校
12			岩手県	挑戦し続ける勇氣	おの でらちさと 小野寺千里	いわて けんりついちのせきだいいちこうとうがっこう 岩手県立一関第一高等学 校附属中学校

人生を駆け抜ける

山形県天童市立第三中学校
3年 岩淵 礼姫

「死にたい」、私はつぶやいた。期待に胸をふくらませていた中学校生活。しかし、そこにまっていたのは卑劣ないじめだった。指をさされ笑われた。トイレのドアをたたかれ罵声をあびせられた。すれ違うたびに馬鹿にされた。毎日苦しかった。悔しかった。もう死ぬしか逃げ場所がなかった。

そんな限界まで追い込まれた私は、ある日の朝爆発した。声が枯れるくらい泣きじゃくり、母に全てを打ち明けた。母は私の話を受け入れ、強く抱きしめてくれた。久しぶりに触れた人のぬくもりに、涙が止まらなかった。

その後、私はたくさんの人に助けられた。いじめをした人に直接注意してくれたクラスメイト、私のことを一番に考え、守ってくれた両親、陰ながら支えてくださった保護者の方々、相談に乗っていただいたり見守ってくれたりした先生方。その人たちのおかげで、「私は独りじゃない、心を閉ざさず自分を表現していいんだ。」ということに気づかされた。そして、私は一歩前に踏み出すことができた。本当に感謝してもしきれない。

いじめを受けていた頃は、人に心を開けず、友達なんか一人もいなかった。でも、三年生になった今では、心を開けるようになり、親友と呼べるまでの大切な友達もできた。自分の存在が疎ましく、毎日通うのが苦痛だった学校も、今では、安心できる居場所となった。

学校が楽しくて仕方がない。私は今、とても幸せだ。

いじめの経験は私を成長させてくれた。自分が変わるためには誰かからの助けを待つだけではなく、自ら一歩を踏み出さなければならないこと、自分を偽らず正直に表現すること、そして、一番大切なことは私自身が周りの人を思いやること。私はいじめの経験から大切なことを学ぶことができた。

いじめをする理由は様々あると思う。「社会的じゃない」「容姿がみんなと違う」「一部分がみんなより劣っている」。でも、それは当たり前のことではないのだろうか。

金子みすゞさんの詩に、「みんな違ってみんないい」という言葉がある。それぞれが別々で、でもそれに優劣はなく、すばらしいのだ、という意味である。みんなが同じ顔、同じ容姿、同じ性格では社会は成り立たない。だからこそ、互いを認め合いながら生きていかなければならない。それぞれに個性があるから社会が成り立っているのだ。

私は、いじめを見ている人、いじめをしている人、いじめをされている人、それぞれに伝えたいことがある。まず、いじめを見ている人。今、少しでも助けたいという気持ちがあるなら、勇気を出して、いじめられている人に声をかけてあげてほしい。いじめられている人は「私の味方は誰もいない」という孤独感でいっぱいだと思う。声をかけてあげるだけでも心が楽になるはずだから。そして、決していじめる側の人間にならないでほしい。

次に、いじめをしている人。いじめは立派な犯罪だ。それでも、まだ、あなたは人を傷つけますか。自分のやっていることが人として本当に正しいかどうか、考え直してほしい。あなたのその一言が、あなたのその行動が、相手の命を奪うかもしれないということに気づいてほしい。

最後にいじめをされている人。今苦しくて悔しくて、もうこんな人生捨ててしまいたい、そう思っているかもしれない。私もそうだった。でも、死んで何になる。あなたが死んでしまったら、どれだけたくさんの人が悲しむか考えてほしい。あなたのたった一つの尊い命を捨てないでほしい。

「生きていて良かった」そう思える日が必ずくるから、全力で生きて。逃げていいんだよ。人生は自分の努力次第でどうにでもなるから、今は自分の命を大切にしてほしい。

私も、この経験から学んだことを活かし、たくさんの人に支えられ、助けられた自分のたった一つの命を大切に、自分は自分らしく幸せになるために、しっかりと私の人生を駆け抜けていきます。

あしがき

平成30年度「少年の主張島根県大会」の報告書をお届けします。本年度の県大会は安来市総合文化ホールアルテピアを会場に行われ、県内13市郡から選抜された17名の皆さんが出場しました。

今回の発表には多彩なテーマがありましたが、大きく2つのテーマに分けられました。一つは「外国人・障がい者」といったマイノリティーとの向き合い方について、もう一つは「病気・地域」と自分との関わり方についてです。様々な角度から中学生らしい意見を聞くことができました。

発表者の皆さんの表現力が豊かで話し方も洗練されており、視聴者に訴える表現スタイルが印象的だったと審査員全員が評価しています。我々大人が普段見落としていたり、気が付かなかったりすることを、中学生の視点から鋭く指摘され、良い勉強の機会を与えてもらったと思います。

この報告書には、県大会で発表された17作品と、全国大会での最優秀作品を掲載しています。多くの皆さんに読んでいただき、発表者の思いが一人でも多くの皆さんに伝わり、青少年育成に各分野で活かされることを願っています。

平成30年12月

平成30年度「少年の主張島根県大会」
審査員長 前田 幸二

平成30年度 少年の主張島根県大会報告書

平成30年12月発行

編集 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地（県庁青少年家庭課内）

TEL 0852-22-6255 FAX 0852-22-6045

<http://www.shimane-youth.gr.jp/>

E-mail : nobinobi@shimane-youth.gr.jp

Facebook 「青少年育成島根県民会議」



青少年育成島根県民会議
シンボルマーク